

第1号議案

令和6年度 社会福祉法人白龍会事業報告

社会福祉法人白龍会として、令和6年度の事業計画書に掲げた、以下の4項目の課題について推進してきた。

1つ目の「経年劣化による修繕箇所の早期発見に努め、修繕又は改修を行う。」については、大規模改修はなかったものの、必要箇所の修繕を適宜行い業務への大きな支障は生じなかった。

また、2つ目の「職員の処遇改善に努め定着促進と介護職員の募集と採用に尽力する。」については、職員の処遇改善を行い、募集に取り組んだものの、全国的な人手不足、特に介護職については、人員確保がより深刻な状況にあり、募集呼びかけにも反応は薄く、思うような成果を上げることができなかった。

次に、3つ目の「利用者の安全確保と快適性を提供するため、職員スキルアップ研修の充実を図る。」については、全国老人福祉施設大会をはじめ、各種研修会等に積極的に職員の参加を促し、持ち帰った知識、技術を普及し、職員の資質向上に努めた。

なお、4つ目の「自然災害及び感染症対策の防災訓練の充実強化と計画の見直し、改善を図る。」については、毎月防災訓練を実施するなど、防災対策に取り組んだ。

しかしながら、本年1月10日に、特別養護ホーム入所者が新型コロナウイルスを発症し、続けてインフルエンザも施設内に感染が拡大し、約1ヶ月半の間この対応に追われた。

この経験を基に、感染症対策についての検証を行い、対策計画の見直しを行った。

以上、4つの課題への取り組みに加えて、物価高、人件費の増加など施設運営を取り巻く環境は、ますます厳しさを増す中、デイサービス事業の見直し、再編を行うとともに、利用者増加に向けて鋭意努力を続けてきたものの、収入の根幹である施設利用者の定数未到達が続き、厳しい財政運営を強いられている。

(1) 理事会・評議員会の開催

法人本部及び施設の事業計画並びに予算、決算及び諸規程の改正等審議するため次の通り理事会・評議員会を開催した。

<理事会>

- 1 令和6年5月25日
・令和5年度事業報告

- ・ 令和 5 年度決算報告 監事監査報告
 - ・ 給与規程の変更について
 - ・ 評議員会の開催
 - ・ 前回理事会以降の経過報告
- 2 令和 6 年 9 月 21 日
- ・ 給与規程の変更
 - ・ デイサービスセンター秋葉の苑やしおの撤退について
 - ・ デイサービスセンター秋葉の苑の定員増について
 - ・ 施設・設備整備積立金の目的外取崩しについて
 - ・ 前回理事会以降の経過報告
- 3 令和 7 年 1 月 18 日
- ・ 令和 6 年度第 1 回補正予算
 - ・ 中間監査報告
 - ・ 前回理事会以降の経過報告
- 4 令和 7 年 3 月 22 日
- ・ 令和 6 年度第 2 回補正予算
 - ・ 令和 7 年度事業計画
 - ・ 令和 7 年度当初予算
 - ・ 令和 7 年度資金運用計画について
 - ・ 経理規程の変更について
 - ・ 前回理事会以降の経過報告

<評議員会>

令和 6 年 6 月 15 日

- ・ 令和 5 年度計算書類（貸借対照表及び収支計算書）及び財産目録の承認
（監査報告）
（令和 5 年度事業報告）

（2）監事による監査の実施

1 令和 6 年 5 月 21 日

- ・ 本部施設の事業及び会計について監事による監査を実施し、事業並びに経理の適性を期する。

2 令和 6 年 11 月 14 日

- ・ 本部施設の事業及び会計について監事による中間監査を実施し、事業並びに経理の適性を期する。

令和6年度 秋葉の苑事業報告

人が人を介護するという貴い仕事の中、相手の立場にたち、温かさ、やさしさ、豊かさを持ち、自分の仕事に責任と誇りをもって努めて参りました。

年度末近くになり、コロナそしてインフルエンザと2つの感染症が当苑にふりかかり、あたふたした日を過しました。職員が一丸となり終息に向けて努力致しましたが、1ヶ月以上の日が費やされ、皆さんにご迷惑をおかけしてしまいました。

感染症に入られると、皆様の体力の著しい減退がみられ、感染症を絶対に入れないという信念のもと、日々気をつけてゆかなくては・・・と。

職員で話し合い検討してきました。

ズームを利用した研修、カンファレンス等多いに活動出来、利用者の安全、安心の生活につながったと思います。又、全国大会への出席などもあり、世の中の事情に遅れないよう努めました。

介護度3以上の方が入所対照者となられてからは、待機者の減少、入所しても在所期間の短さが著しく、満床にするにはどうしたものかと始終四苦八苦している現状です。職員不足も近年変りがなく、ぎりぎりの人数の中、皆さん頑張って下さり、利用者の皆様の生活に温かさや豊かさをおいを提供して下さっています。

各種委員会及び主任会議でおおいに意見を戦わせ、利用者の皆様の豊かな生活が保てるよう努めて参りました。

<事務管理>

外来者受付、電話対応など、外部と苑のなかつぎ役として、基本理念である明るい笑顔と挨拶、お客様の気持ちをくみ取る対応を常に考えて対応するようにした。本部・施設の予算決算を滞りなく行った。

主なものとして

- ・国保連への保険料月々請求

利用者への請求、領収手続きを怠り無く行った。

- ・職員の人事に関する事
- ・苑前の空き地借用の件
- ・職員からの調達・建物・器具の補修の対応
- ・多額のものとして、高圧気中開閉器取替工事施工、自家発電設備（屋内消火栓）修繕、貯湯槽昇温用ラインポンプ防振接手交換、消防法令に基づく立ち入り検査指摘事項改修工事などを行った。
- ・施設内の整理整頓、清潔に留意した。
- ・職員の健康管理指導に努めた。

<防災>

令和 6 年度も、毎月 1 回のペースで夜間想定を交えて避難訓練を行った。

1 4 月 26 日 AM10:30～11:00 日勤体制での避難誘導訓練

特養、ショート、デイ、職員 95 名参加

特養、厨房より火災発生

※ 反省・感想

避難誘導スムーズに行えた。今年度より入所利用者もヘルメットを着用して避難する事となったが、今回の訓練では誰一人として被って避難する事がなかった。デイサービスの反省で、利用者にヘルメットを着用させることに手間を取り、避難誘導に時間を要したとあった。ヘルメット着用も必要条件の一つです。特養も同様に考えられるため、次回から全員着用するように周知徹底したい。

2 5 月 13 日 AM10:30～10:45 日勤体制での地震発生による避難誘導訓練

特養、ショート、デイ、職員 76 名参加

地震により南側廊下が崩れる想定。(迂回路を設ける)

※ 反省・感想

ヘルメットを利用者のサイズに合わせるのに時間がかかった。足元の不安な利用者には、車椅子での避難を勧めた方が良い。職場同士の声かけ、必要です。

3 6 月 17 日 AM10:30 地震発生、安全確保及び避難準備

特養、ショート、デイ、職員 94 名参加

今回は、集合、点呼なし、報告のみ

各部署で地震時の危険個所の点検、確認を実施し報告

14・18・21・24

DVD の視聴「大地震発生、命と事業を守れ、職場防災対策」

特養・デイは利用者と視聴を実施

※反省・感想

地震がおさまるまでの行動はしっかりできた。厨房は、火元となる可能性が高いため、毎回意識して訓練を行っていききたい。

DVD を視聴し、しっかりと防災ができるのかと不安になることが多かった。

防災の備蓄品について知らない。発電機はしっかり利用できるのか。

4 7 月 19 日 PM19:00～19:30 夜間召集の火災による避難訓練

特養、ショート、職員 82 名参加

食堂テレビ付近より出火

※ 反省感想

連絡網スムーズに回すことができた。避難誘導は素早く出来ていた。

5 8 月 22 日 AM10:30～11:10 日勤体制での避難誘導訓練・放水訓練

特養、ショート、デイ、職員 99 名参加

デイやしお台所より火災発生・放水訓練

※ 反省感想

特養介護職員が少なかったので、他部署がいつもよりかわる避難でした。
やはり、他部署に頼むには、職員間の声かけが必要であると感じた。
放水訓練—ホースのひねる向きや蛇口をひねる向きなど書いてあるが、実際
火事の際は見る余裕ない為、実際体験して覚えておくこと大事だと思った。

6 9月27日 AM10:30~11:00 夜間想定での火災による避難訓練

特養、ショート、デイ、職員 70名参加

特養食堂ホットボックスコンセント付近より火災発生

※ 反省感想

職員同士の声かけ出来ていたと思う。出火場所の把握、初期消火、利用者、
職員の人数の把握の徹底が大事であると感じた。

7 10月16日 AM10:30~10:42 日勤体制での火災による避難誘導訓練

特養、ショート、デイ、職員 96名参加

特養洗濯場の乾燥機より火災発生

※ 反省感想

苑内放送や点呼の声の指摘があった。緊急時の放送、生存確認の為の点呼な
ので、はっきりと大きな声でおこなう必要があった。普段から意識していき
たい。ヘルメットをかぶっていない人がいた。

8 11月4日 AM10:30~11:00 日勤体制での地震による火災発生の避難誘
導訓練

特養、ショート、デイ、職員 67名参加

地震後厨房より火災発生

※ 反省感想

今回の避難訓練では、職員同士の声掛けに重点をおくこと、避難場所を施設外
とした。「火元に近い方から避難を」、「どこそこに何人利用者が残っている」
など、スムーズにかつ的確に進めることができ、意識して行う事の大切さを
感じた。また、外までの誘導距離により人員を割かれること、点呼時には声
が通らない事等課題である。

9 12月13日 AM10:30~11:00 日勤体制での火災による避難訓練・応急救
護訓練

特養、ショート、デイ、職員 .名参加

食堂おしぼり保温庫より火災発生・看護師による応急救護

※ 反省感想

消防署に事前連絡をし忘れてしまった。

ヘルメットをかぶるのに時間がかかる。(利用者が自身でつけられない。)

応急救護

応急救護に参加できる利用者がいなくて残念でした。

10 1月防災訓練 コロナ、インフルエンザ発生の為中止

11 2月防災訓練 //

12 3月防災訓練（4月3日）PM7：00～ 職員連絡網を利用した伝達訓練
10：00 最後の伝達終了の連絡が入る。

※ 反省感想

退職者の把握ができていなかった。職員の出入りに応じ連絡網を作成したほうがいいと思う。職種別にした方がよいのではないか。

<1年間の反省>

訓練自体はスムーズにできていたが、ワンパターン化している。

避難場所も色々変えたらどうか（外への避難を増やしてもいいのでは）

ヘルメットをもっと活用してほしい。

消防署の話を聞きたい。

AED の使用方法をもっとやった方がよい。

<職員研修>

* 施設内研修

研修については、感染症防止のため、職員全体集まつの会は1回だけとし、研修報告を回すことで理解していただいた。

* 施設外研修

4月から	浜松市老人部会（Zoom）	年間6回	小澤朋・大道・高村
5月から	「ケアマネ・サロン」	2回	松並・京子
6月から	「ケアプランの書き方」	2回	松並・京子
7月から	天竜区地域ケアマネジャー演習事業	3回	松並・京子
8月から	ホスピス研修	2回	杉浦
9月から	BCP 研修会	年間3回	大道正
5月	令和6年度静岡県給食協会浜松市部総会		中田
6月	北遠地域介護保険サービス事業所連絡協議会 総会及び研修会		小澤朋・大道正
7月	安全運転管理者講習会・総会		岡本
7月	天竜区の在宅医療介護連携を考える		京子
8月	浜松市介護支援専門員連協天竜区支部研修会		京子
8月	事務職員研修会		木下
8月	介護施設居宅介護支援事業所協議会		小澤朋・大道正
9月	介護職員研修会		稲葉
9月	相談員研修会		小澤朋・高村
9月	「天竜区在宅医療介護連携事業」講演会		京子

10月	給食職員研修会	中田
11月	全国老人福祉施設大会研究会議～JS フェスティバル in 滋賀	大道正・高村
11月	北遠介護看護研修会	芦澤
	老人部会看護職員研修会	伊藤
	多職種合同カンファレンス（講演会）	京子
12月	法人施設管理研修会	
	「災害時のBCP訓練の進め方」	大道正
2月	「介護現場へのICT導入により本当に介護の生産性向上は実現できるのか？」	小澤朋・大道正・森下ま・伊藤・中田・高村
2月	地域連絡会「虐待早期発見・防止」	松並・京子

慰問・ボランティア一覧

	慰 問	ボランティア
4月		つくし会様（習字）
5月	なでしこ会様	
6月	喜多八郎・春野すずめ様	
7月		
8月	劇団「限界集落」様	
9月	島育子様歌謡ショー 喜多八郎・春野すずめ様 なでしこ会様	つくし会様（習字）
10月	平和会様（ハンドベル）	
11月		
12月		つくし会様（習字） 岩本弘様・栗田吉章様（門松作製） 嶋口晃様
1月		
2月		
3月		

<研 修>

- ・ 社会福祉実習

趣旨

高校生が、福祉施設での実習を通し、福祉に関する知識や技術を学ぶとともに高齢者や施設の方々とコミュニケーションをとる中で、相互の交流を深め、福祉マインドを身に付ける。

- ・ 高校生

期間	学校名	内容	人数
令和 6 年 5 月～ 11 月	静岡県立 天竜高校春野校舎	体験実習	4 名

- ・ 中学校「職場体験活動」

目的

キャリア教育の一環としての職業学習の中で、実際に「働く」という活動を経験し、生徒の職業観をより深める。

10/3 春野中学 3 年生 4 人

令和6年度 特別養護老人ホーム秋葉の苑事業報告

【目的】

入所者の生活経験や価値観を理解し、偏見や先入観を持たずに、困難や不自由を少しでも軽減して、安心感を与えるような援助ができるように努めた。

(1) 生活

〈施設内の環境〉

季節感を取り入れた苑内の環境作りを行い、個人の環境については、本人の嗜好を考慮しながら、家族から提供された写真や飾りなどを配置した。

〈施設外への外出〉

感染予防等の関係から、基本的に外出は、通院、理美容、金融・行政手続きなどの目的に限っている。

ただし、本人・家族から、自宅などへの外出の希望があった際には、個々のケースに対して会議で検討し、外出の可否を判断している。

〈つぶやき〜今日の予定・その他〜〉

“つぶやき”にて、その日の予定（メニューや行事など）をあらかじめ知ってもらったり、担当職員により話題提供が行われるようにした。

〈喫茶〉

毎週火曜日の喫茶で、好きな飲み物と甘いものを選んで味わうことを楽しみにしている利用者は多い。ご利用者の1週間の生活リズムを作る上でも大きな役割を果たしている。

〈クラブ活動〉

現在、行われているクラブ活動は習字クラブのみであるが、ご利用者一人ひとりの個性を表現する大事な機会となっている。全作品を苑内に貼り出し、一部を春野町文化展に出展している。

〈誕生会〉

誕生会の最初に、誕生者のプロフィールの紹介をご本人とのQ & A方式で行っているが、誕生者が歩んでこられた人生の道のりに、改めて思いを馳せる貴重な機会となっている。プレゼントの贈呈の後、最後は懐かしい歌を誕生者とみんなと一緒に歌う。誕生者だけでなく、みんなにとって楽しみな特別な一日となっている。

〈行事〉

新型コロナウイルスの類型はすでに2類⇒5類へ変更になっているが、今年1月～2月に当苑でも新型コロナウイルスとインフルエンザの感染が広がったように、当苑のような高齢者入所施設においては、感染症のリスクに変わりはなく、令和6年度も行楽・家族会は行っていない。年中行事は地域や家庭での思い出や、1年の中での節目を感じさせてくれるものであり、演芸会などの行事は職員と利用者が一緒になって楽しむ機会となっている。お花見では、桜の景色に感動・感謝されているご利用者の姿を見ることができる。ご利用者とともに堤防の桜並木の下を歩みながら、また翌年も皆さんが健康で、この景色と一緒に楽しめるようにとの思いを新たにしている。

令和6年度 利用者状況

定員 50名 現員44名 令和7年 3月 31日現在

<利用者内訳>

1、人数・年齢等

人数	最高年齢	最小年齢	平均年齢
44	105	70	89.55

2、年齢階層別表

	男性	女性	計
60～64歳	0	0	0
65～69歳	1	0	1
70～74歳	0	0	0
75～79歳	2	1	3
80～84歳	3	4	7
85～89歳	2	6	8
90～94歳	2	13	15
95～99歳	0	7	7
100～	0	3	3
合計	10	34	44

3、在苑期間別人数

	男性	女性	合計
1年未満	5	11	16
1～3年未満	4	7	11
3～5年未満	1	6	7
5～10年未満	0	9	9
10年以上	0	1	1
合計	10	34	44

平均在苑期間（年）

男性 1.74

女性 3.33

全体 2.97

4、要介護度

要介護度	男性	女性	合計
要介護1	0	7	7
要介護2	0	3	3
要介護3	6	12	18
要介護4	3	8	11
要介護5	1	4	5
計	10	34	44

〈各月の外出／入院／入退所〉

※単位 [人]

※受診の()内…件数

		令和 6 年									令和 7 年		
		4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月
外 出	受診	6(8)	4(4)	5(7)	3(4)	4(4)	2(5)	5(5)	5(6)	4(7)	2(2)	2(4)	4(5)
	理美容	1						3	1	1			
	金融/行政機関		1	1		1		1	1	1			
	自宅			1	2	3			1	1			
	その他	1								1			
入院			4	3	2		1	2		3	3	7	7
入所		2	3	2	1	2	2	1	3	3	0	1	2
退所		1	1	0	1	2	1	3	0	1	4	1	2
退 所 の 内 訳	苑内での死去	(1)			(1)	(2)	(1)	(1)		(1)	(1)		(2)
	入院先での死去		(1)					(1)			(3)	(1)	
	入院中の退所							(1)					
	他の施設へ												

〈入所〉 令和 6 年度に入所された方は 22 名

〈退所〉 令和 6 年度に退所された方は 17 名

(苑内での死去 10 名・入院先での死去 6 名・入院中の退所 1 名)

〈外泊〉

※令和 6 年度は、外泊はなし。

〈重度心身障害者医療費助成受給者〉 5 人

〈医療保険等加入状況〉 ※単位 [人]

国保	1
生活保護	0
後期高齢者	43
合計	44

負担限度額段階・要介護度別 利用料

負担段階	第 1 段階		第 2 段階		第 3 段階①		第 3 段階②		第 4 段階		合計
要介護 1		0人	¥49,547	2人	¥57,607	1人	¥79,617	2人	¥97,287	2人	7人
要介護 2		0人	¥51,997	2人		0人		0人	¥99,737	1人	3人
要介護 3		0人	¥54,550	4人	¥62,610	3人	¥84,620	1人	¥102,290	10人	18人
要介護 4		0人	¥56,999	2人	¥65,059	3人	¥87,069	1人	¥104,739	5人	11人
要介護 5		0人	¥59,413	2人		0人		0人	¥107,153	3人	5人
合計		0人		12人		7人		4人		21人	44人

※この中に「利用者負担額」「食費」「居住費」「貴重品管理費」を含む。

<社会福祉法人による利用者負担軽減制度>

※低所得の人が申請によってサービス費用の1割・食費・居住費それぞれ25%が軽減される制度。

・対象者5名 軽減額 512,732円 (市補助金 60,057円、苑負担 452,675円)

<預り金>

- ・通帳・印鑑の管理：印鑑を苑長、通帳を相談員がそれぞれ別に保管、管理する。
 - ・定期的に（3ヶ月に一度）、保証人へ通帳のコピーを送付して確認していただく。
- そのうえで、預り金確認書に署名・捺印し、返送していただく。

（２）施設ケアマネジャー

〈目標に対して〉

ご利用者が健康に毎日を過ごしていけるように、会議・ミーティングや、随時のやりとりの中で、ご利用者の状態変化や課題を、タイムリーに多職種間で情報共有しながらサポートを行った。その人らしさを大切にしていけるように、入所時に生活歴や趣味の聞き取りを丁寧に行い、必要に応じて面会後にご利用者・ご家族とも相談しながら、ご利用者の人生史や趣味活動を伝えたり、発表できる場を作り出すように工夫した（てんぐだより・玄関ホールへの展示・春野文化展など）。

〈ケアマネジメントの実施に関して〉

担当者からの聞き取り、ミーティングの報告や、各部署の記録など、多様な方法で状況の把握を行った。担当者会議は基本的に、介護保険更新時および1年ごとの短期目標期間終了時に開催している。毎週水曜日の主治医回診のあとにカンファレンスを行い、気になるご利用者の病状について、主治医も含めた相談の機会を持つようにしている。ケアプランの目標やサービス内容を、これまで7種類に分けて記載してきた。（「移動」・「食事」・「入浴と排泄」・「病状管理」・「夜間のケア」・「意思疎通」・「本人の趣味や楽しみ」の7つ）令和6年度からは、政策的に「口腔衛生管理体制の強化」への取り組みが義務化されたため、ご利用者個々のケアプランの中に「口腔衛生」についての内容を8つめの項目として順次追加している。

〈入所から終末期までの期間全体を視野に入れた生きがいと看取りの支援について〉

令和4年度より、入所から終末期までを大きく「安定期」「変化期」「終末期」の三つの時期に分けて捉えるようにした。終末期よりも広い意味の「人生最後の時期（エンド・オブ・ライフ）」についての意向確認を、終末期以前の時期にも徐々に行うようにしていき、ご利用者の活動と家族との交流が少しでも充実するようにしていきたい。入所前の医療機関で延命措置等についての医師面談が行われたケースについては、これまでの『終末期依頼書』に代わる『終末期の医療等についての事前確認書』を使用して、入所時点で、終末期医療や延命措置に関する意向をあらためて確認するようにしている。

〈ご利用者の要介護度区分の変更の検討について〉

ご利用者の状態・レベルを反映する最も基本的な指標は「要介護度」であるが、入所中にADL（日常的な生活動作）のレベルが大きく変化した時には、「ご利用者の現状（状態像）」と「介護保険の要介護度」が釣り合っていないことも出てくる。要介護度で2段階以上の変化があるかどうかを、ケアプランの短期目標期間終了時の担当者会議で（1年ごとに）確認したいと考えたが、令和6年度は、全利用者の状況を1年ごとに担当者会議で話し合うのが精一杯で、要介護度の検討はほとんど実施できなかった。（令和7年度は生活相談員として月の始めの主任会議で「前月の月次報告」を行っていくように考えているが、それに合わせて、利用者の「要介護度の妥当性」も確認することを検討したい）

(3) 生活相談員

〈目標に対して〉

利用者の「全体性」と「自分らしさ」を理解・尊重しようと努めながら、利用者同士や家族との交流、苑内での時間の過ごし方が少しでも豊かになるように援助した。また、多職種・他機関・家族との連携がスムーズになるように工夫した。

〈目標に対しての具体的な取り組みの進捗状況〉

○新規入所の手続きや、特例入所者（要介護1,2）の照会資料作成が、迅速かつスムーズになるように、入所申し込み時の聞き取り情報を拡大し、入所申し込みから1週間以内の判定会議実施が可能となっている。

○ひと月の間に複数の退所者が出ることも増え、すぐに入所へ進める待機者がいない場合もしばしばあった。そのため、定員に対して入所者が不足している状況をなかなか改善できない期間が長かった。（※すぐに入所へ進める待機者が常時数名いる状況にしていきたいために、令和7年度は、営業活動について下記のような変更を検討し、実施していきたい）

〔これまで〕

- ・相談員による FAX ⇒
- ・定員割れの時期のみ ⇒
- ・天竜・浜北地区中心 ⇒
- ・病院やケアマネ中心 ⇒
- ・空き状況と可能な医療処置の連絡 ⇒
- ・随時の FAX ⇒

〔これから〕

- ・多職種の協力を得て「直接営業」を含むものにする
- ・定員を満たしていても定期的に行う。
- ・県西部全体へエリアを広げる
- ・老人保健施設など対象の変化や拡大
- ・入所準備中の人数などのデータも伝える
- ・秋葉の苑の雰囲気も伝わるようにする
- ・地域・施設種別ごとの年間営業訪問計画+随時の FAX

○「長い期間入所申し込みをしたままの方の状況把握」を昨年末に実施した。今後は、「入所申込者の定期的な状況把握の実施」をできるだけ行っていくとともに、優先入所会議の第3者委員とも相談しながら、「入所申込書の有効期間」を決めて一定期間でリセットできるようにしていきたい。／「入所契約時の書類の様式の見直し」および「入苑者台帳の様式の変更」については、引き続き検討中／「緊急連絡先の様式変更」は中止し、事務所・相談員・介護に加えて、看護にも「緊急連絡帳」を置くようにした。

○「介護現場における ICT 化の促進」に関しては、今年3月から生産性向上委員会が隔月開催されるようになったので、その中で参加メンバーと共に検討していく。

○毎週月曜日の主任会議において、相談員として他部署と同じように、「前後1週間の出来事や予定」を報告し、書面でも提出している。併せて、「多職種で協議したい事柄」や「感染症の状況」、「入所に向けて進めている人の状況」も報告している。（令和7年度からは、年間事業報告を細分化した「月次報告（P11 の上の〈各月の外出／入院／入退所〉など）」をまとめて月初めの主任会議で報告し、PDCA（Plan(計画)-Do(実行)-Check(評価)-Action(改善))のプロセスを毎月繰り返すことにより、業務改善と営業活動の助けとしたい）

令和6年度 日用品支給表

	支給品内容
誕生日	誕生日のプレゼント（1人 2000円程度にて品物又希望メニュー対応）
9月敬老式典	花（喜寿、米寿、白寿、90歳以上の方へのプレゼント）
クリスマスプレゼント	全体で希望する品物をプレゼント
その他	歯ブラシ・歯磨き・箱ティッシュ（1箱／月）
	レクリエーション、娯楽共有金あり

令和6年度 年間行事

〈令和6年〉

（3月31日	お花見会）
7月 5日	七夕会
9月上旬～	敬老週間（ボランティアの慰問など）
9月 8日	敬老会
9月20日	演芸会
12月15日	忘年会
12月22日	餅つき会
12月31日	年越しそば

〈令和7年〉

1月 8日	新年祝賀式
2月 7日～9日	春野文化展へ出品

※感染症拡大のリスクを考慮し、家族会・行楽は実施しなかった。

※2月3日を予定していた「節分の会」は、苑内での感染拡大のため、実施しなかった。

(4) 介護

《目標の成果》

- ① (安心感を与えるような言動と話しやすい環境作りを心掛け、穏やかに生活できるようにする。)
利用者が多様化してきており、個々に合わせた対応が十分ではなかった。
- ② (利用者の状態の変化が感じられたら、職員間で情報の共有をし、迅速に対応することで事故を防ぐ。)
職員間での情報共有が不十分で対応が遅れることがあった。
- ③ (利用者のご家族に寄り添い、その人らしく終末期を迎えられるようにする。)
面会等柔軟な対応をし、穏やかな終末期を迎えていただくことができた。
- ④ (感染症の予防に努め、発生した場合には速やかに対応できる体制作りをする。)
職員個々が意識を持ち、感染症の予防に努めた。発生した場合の体制作りもしていたが、いざ発生すると統一した対応ができなかった。

利用者の入退所が安定せず、めまぐるしい変化に対応しきれなかった。また、感染症発生時のマンパワー不足も深刻であった。一部署ではなく、施設全体としての体制作りの必要性を感じた。

〈苦情相談〉

なし

〈身体拘束廃止委員会〉

拘束を行う際には、記録を残し、家族への説明と了承を得ている。月一回の委員会だけでなく、随時で行うことで早めの対応ができ、減らすこともできた。

〈事故防止委員会〉

感染症発生時には、普段と違う環境での業務に追われ、体調不良に起因した事故が多発してしまった。

日常生活動作(ADL) 令和7年3月31日現在

〈入浴〉	男	女	計	〈食事〉	男	女	計
自立浴	0	1	1	自立	6	25	31
介助浴	2	13	15	半介助	1	6	7
中間浴	4	14	18	全介助	2	2	4
特浴	4	6	10	経管・胃瘻	1	1	2
合計	10	34	44	合計	10	34	44
〈移動〉	男	女	計	〈排泄〉	男	女	計
自力歩行	1	3	4	自立	3	8	11
見守り介助	1	0	1	トイレ誘導	3	15	18
歩行器	0	5	5	ポータブルトイレ	0	2	2
車椅子(自立)	2	4	6	オムツ	4	7	11
車椅子(半介助)	0	9	9	バルーン	0	2	2
車椅子(全介助)	6	13	19	合計	10	34	44
合計	10	34	44				
〈着脱〉	男	女	計				
自立	1	3	4				
半介助	7	28	35				
全介助	2	3	5				
合計	10	34	44				

(5) 看護

健康診断実施状況

利用者

- ・春季健康診断（令和6年4月実施）
- ・血液検査
- ・胸部レントゲン（令和6年5月実施）
- ・秋季健康診断（令和6年10月実施）
- ・インフルエンザ予防注射（令和5年11月実施）

利用者全員に施行

- ・週に1回 バイタルチェック
- ・毎月末（第4週）体重測定
- ・コロナワクチン接種6回施行（1回目3年6月2回目3年7月3回目4年2月

職員 4回目4年8月5回目4年12月6回目5年8月）

- ・春季健康診断（令和6年4月実施）
- ・血液検査 検尿 血圧
- ・胸部レントゲン（令和6年5月実施）
- ・腰痛検査（令和6年6月実施）
- ・秋季健康診断（令和6年10月実施）

血液検査 検尿 血圧

- ・腰痛検査（令和6年12月実施）
- ・インフルエンザ予防注射（令和6年11月実施）
- ・コロナワクチン接種6回施行（1回目3年6月2回目3年7月3回目4年2月

4回目4年8月5回目4年12月6回目5年8月）

嘱託医師診察状況（嘱託医師 小澤靖）

定期回診 毎週水曜日午後

随時往診 緊急時 その他必要に応じて

毎日の処置

内服薬投薬

経管栄養注入

バルーンカテーテル挿入

傷処置

外用薬塗布

血糖値チェック

点眼薬投薬

随時行うもの（医師の指示によるもの）

点滴注射 筋肉注射 導尿 喀痰検査 カテーテルの交換 排便を促す座薬

解熱剤の座薬挿入など

<健康管理>

- ・毎日、利用者の顔色や表情、歩き方などの状態観察をすると共に、声掛けを多くするように心掛けた。他部署との情報の共有もできた。体調を崩した人や異常者を早期発見し、少しでも早く苦痛緩和ができるように、Dr との連絡、報告、診察、処遇などができた。
- ・結核感染予防の為に、胸部レントゲン検査は全員行った。

<記録>

- ・経過観察の記録は、検温表に記録し、他部署の職員が見ても解りやすいようにした。

<口腔体操>

- ・毎週水曜日、食事前に無理なく身体を動かしたり、歌を唄ったりして、声を出すようにし、口腔体操を行った。食事が、美味しく、楽しく、むせ込みも少なく摂れた。

<経管食>

- ・経管栄養者は、注入中及び注入後訪室し、特に逆流、嘔気、嘔吐等異常の有無の観察をしたが、特に問題はなかった。

<排泄>

- ・便秘傾向の利用者には、他部署との連携をとり、下剤薬や坐薬を使用したり、腹部マッサージや水分摂取を心掛ける等排便コントロールを努めたが、排便コントロールのむずかしさを痛感する事があった。

<感染症>

- ・令和 6 年度は、1 月に利用者がコロナ陽性者 21 名、インフルエンザ陽性者 15 名、職員もコロナ陽性者十数名、インフルエンザ陽性者 2 名となり自宅待機をしていた。
2 月下旬終息している。その他のノロウイルス、疥癬等の発生はなかった。
- ・感染症対策委員会では、度々新型コロナウイルス、インフルエンザをテーマにして行い、感染が拡大しないように努めていた。
- ・令和 5 年 5 月から、入館の際には、チェックリスト用紙に記入し、ルールを守って頂き、又、11 月から短期入所の利用者には、必要に応じて抗体検査を行っている。
- ・全職員は、毎朝、勤務開始前に検温測定し記録している。

(6) 給食

常に利用者一人一人の大切な食事であるという意識を持ち、家庭にいた時と同じような気持ちで食事を楽しんで頂けるように、個々の嗜好傾向の把握や、なるべく本人の意向を取り入れ、食事に対する満足度を向上させるよう努めた。また、安心安全に食べられるように、各部署と情報を共有し、利用者の状態に合わせた食事の提供を行った。

<実施状況>

① 給食会議

月に1回、施設長を始め、各部署の代表、委託業者が参加をし、食事に関する意見を出し合いながら、利用者にとってより良い食事の提供が出来るように努めた。また、各部署との情報交換を行なった。

② バイキング、お好み食堂、誕生会のお祝い献立

お好み食堂は週2回、バイキングメニューは月に1回お皿に盛り付けて提供した。にぎやかな料理がお皿に盛られ、いつもと違う雰囲気を楽しんで頂いた。誕生日には、御祝い献立として、甘い物(おまんじゅう、どら焼き等)、ねぎとろ丼、巻き寿司等、本人希望の食事の提供をした。

③ 行事や地域の産物を生かした料理の実施状況

- 4月 筍ごはん、桜蒸しパン、お花見弁当
- 5月 松花堂弁当、山菜おこわ、グリンピースごはん、卵茶巾と海苔巻き寿司
- 6月 梅・しそジュース、新生姜ごはん、新じゃがの煮物、梅干し漬け
- 7月 うなぎのひつまぶし、三色そうめん、焼き茄子、七夕ゼリー
- 8月 夏野菜の天ぷら、フルーツポンチ、アイスクリーム
- 9月 敬老会メニュー、きのこごはん、おはぎ、栗、
- 10月 梅ゼリー、栗ご飯、おやつバイキング(和洋菓子)、とろろ汁、ちらし寿司(祭典)、芋寒天、水ようかん
- 11月 さつま芋ごはん、ふろふき大根、握り寿司、茶碗蒸し、柿
- 12月 忘年会バイキングメニュー、ケーキバイキング、あんころ餅
- 1月 おせち料理、お雑煮、和菓子バイキング、にぎり寿司(新年祝賀式)とろろ汁、七草粥
- 2月 おにぎり、いなり寿司、えびドリア、甘納豆
- 3月 ちらし寿司、三色そばろ丼、ぼた餅、ひな祭りゼリー、いちご

毎月1日は赤飯の実施。行事の時は、ビール等も提供した。

④ 栄養ケアマネジメント

担当学会議で利用者の現在の状態を話し合い、利用者に合った栄養ケア計画書をたてるように努力した。また、喫食率低下や、体重減少があった場合は食事形態の見直しや、補助食や嗜好品などの検討をし、現状維持に努めた。

⑤ 食事形態

食事を美味しく楽しんで頂けるように、利用者の希望を聞き、普段は粥の利用者でも、味ご飯の時はそのまま提供するなど、個々の希望に沿った食事の提供をした。利用者の状態によって(嚥下機能の低下が見られる時など)水分や汁物にトロミをつけて提供している。ソフト食でも食べづらい、食べが悪い方にはミキサー食を提供し、喫食率の改善に努めた。利用者の残存機能を維持するために、自力摂取をなるべく勧め、自分のペースで喫食して頂いた。

⑥ 安心安全な食事の提供

禁止食(好き嫌い、アレルギー)や減塩食、5種類の形態への対応をしている。そのため、安全に喫食して頂けるように、名札に記したり、禁食のある人は名札を立てて区別したり等、配膳ミスを防ぐ工夫をし、確認業務を行なった。衛生面に関しては、遅番従業員が床や食器棚等の清掃をし、厨房内の清掃が徹底された。反省点としてはデイサービスに提供したお膳に、金タワシの一部が混入してしまった。破片が混入する危険性のある物は厨房内から撤去した。また、作業時、盛り付け時には細心の注意を払い、再発防止に努めていく。

⑦ 配食弁当

現在、平均配食数 昼5食・夕10食程配食をしている。

1人暮らしの方の昼、夕の配食弁当は、安否確認も兼ね、温かなお弁当を各家庭にお届けした。減塩食やアレルギーがある方(禁止食)、粥、刻み食への対応も行った。配食用の名札を作ることで再確認をし、ミスがないように努めた。

⑧ その他

地域の皆様や家族の方から、旬の食材を頂き、調理に活用した。

(わらび、しいたけ、たけのこ、柿、甘夏など) その時期の香りや味を楽しみ、利用者の食への関心を高めた。

令和 6 年度

ショートステイ秋葉の苑事業報告

《目標の成果》

- ①（安心感を与えるような言動を心掛け、笑顔で接する。）
動きのある利用者が多く、余裕を持った対応ができなかった。
- ②（職員間で情報の共有をし、統一した介助をしていく。利用中の様子に合わせて臨機応変な対応をしていく。）
様子に合わせて臨機応変な対応はできたが、統一したものではなかった。
- ③（事故のないようしっかりと観察をする。）
防ぎきれなかった事故もあるが、しっかりと観察を続けることができた。
- ④（利用者・家族双方の気持ちを尊重した対応をしていく。）
利用者・家族双方の気持ちの尊重に努めたが、量りきれない部分があった。

感染症発生時には、利用中に感染してしまったり、利用をお断りすることがあったりと迷惑をかけてしまった。

<介護度別利用者延べ日数> 単位：日

月 介護度	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
要支援 1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
要支援 2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
介護 1	18	6	7	8	12	37	39	28	12	4	7	21	199
介護 2	6	54	40	55	50	50	49	74	61	58	43	60	600
介護 3	23	24	22	28	21	24	33	21	29	2	23	37	287
介護 4	0	4	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	5
介護 5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
計	47	88	69	91	83	111	121	123	103	64	73	118	1,091

令和6年度 デイサービスセンター〈すみれ〉事業報告

＜令和6年4月から12月までの事業報告＞

稼働率は、ショート利用、入所となった方や入院となった方が居た為、低迷した。
男性利用者が増え、会話の話題も広まったように感じた。苑周辺であるが、リハビリ目的で歩行を定期的に男性利用者が行うことが出来たことは、良かったと思う。
利用者同士、仲が良く、コミュニケーションは、良好で、活動もスムーズに行うことが出来た。

《活動（集団でのレクリエーションや機能訓練活動）》

3グループに分かれ、個々に合った活動を提供することが出来た。
集団レクリエーションも、楽しい雰囲気の中、行えるように努めた。

《通所介護計画の作成》

利用者及び家族に、判り易い通所介護計画書を作成した。
通所介護計画書の作成にあたっては、担当介護支援専門員と連携し作成した。

《生活相談》

利用者及び家族からの相談に応じると共に、適切なサービスや支援が行えるよう、各機関と連携を図った。

《入浴》

利用者一人ひとりの健康状態を把握しつつ、身体状況に合わせた介助を行った。
入浴中は、十分な見守りのもと、安全安楽に入浴して頂けるように努めた。
入浴終了後には、感染予防の為、脱衣籠・手すり・マット等、消毒を行った。

《送迎》

安全第一を念頭においた走行及び、安全確保に細心の注意をはらった。
降車した後は、車中（ドアノブ・手摺り・シートベルト等）の消毒を行った。

《食事》

利用者の状態に合わせた粥・刻み食を提供した。
また、栄養面・食事制限等に配慮しながら、ゆっくりと食事が摂取出来るよう気配りした。
食事中は、利用者と職員が、和やかな雰囲気の中（音楽を流す等して）、食事を摂る事が出来た。
また、誤嚥しない様目配り、気配りに努めた。

《口腔ケア》

食事前の健口体操（声出し）、食事後の歯磨きを全員の方に勧めた。
歯ブラシは、預かり消毒、乾燥し保管した。

《健康管理》

日常的に健康管理が行える様、連絡ノートを活用や電話連絡をして情報交換した。
また利用者の健康状態の把握に努め、血圧測定、体温測定、体重測定（年4回）の実施や、体調に変化がみられた時には速やかに、家族へ連絡、担当の介護支援専門員に連絡した。

《日常生活上の援助》

- ① 排泄介助では、個々のペースに合わせ、健康状態の把握を行うと共に、利用者の尊厳に十分注意しながら行った。
- ② 移動の際には、歩行の見守り、歩行器の提供、車椅子の介助等、安全・安楽に出来るよう気配りした。

《地域との交流》

春野校舎3年生＜福祉類型＞4名が実習に、春野中学生3年生4名が体験学習に入った。
敬老お祝いとして、ボランティアさんが歌・楽器（三線）演奏・踊りに入ってくれた。

《運営推進会議》

年二回（4月・10月）行われた。
利用者及び家族、民生委員、包括支援センター職員、行政職員、デイサービスについて知見を有する方々に参加して頂いた。

《苦情相談》

苦情は、なかった。

《身体拘束廃止委員会・事故防止委員会・感染症対策委員会・衛生委員会》

身体拘束廃止委員会・感染症対策委員会・衛生委員会と、各委員会に参加し、積極的に取り組んだが、
事故が1件おきてしまった。

*事故について

トイレ内の洗面所前にて女性（95歳）が、転倒する事故があった。
御家族に謝罪すると共に苑長に報告。その後、再発防止対策を職員全員で話し合い、実施した。

<一日の流れ>

8 : 3 0 ~ お迎え
 9 : 4 5 ~ お茶・バイタルチェック・入浴・(水分補給)・塗り絵・パズル・読書
 1 0 : 4 0 ~ 体操・健口体操
 1 1 : 2 0 ~ 昼食の配膳・昼食・片付け
 1 2 : 0 0 ~ 昼休み
 1 3 : 3 0 ~ 水分補給
 1 3 : 4 5 ~ 歩行訓練・ラジオ体操・グループごとの活動(ゲーム・手芸・レクリエーション
 クラフト作成等)
 1 4 : 4 5 ~ おやつ・お茶
 1 5 : 1 0 ~ 全員で尻取りゲーム
 1 5 : 3 5 ~ トイレ誘導
 1 5 : 4 5 ~ 送り

<介護度別利用延べ人数>

<単位：名 定員 15名>

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
要支援 1	0	0	6	10	7	9	8	8	9	57
要支援 2	5	4	4	5	6	8	10	7	6	55
介護 1	117	135	129	149	138	140	147	110	108	1173
介護 2	79	76	80	81	80	76	89	77	87	725
介護 3	38	32	20	33	44	44	48	44	29	332
介護 4	0	0	0	0	0	0	5	4	5	14
介護 5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計	239	247	239	278	275	277	307	250	244	2356

<介護度別実人数> 単位：名

令和6年12月31日現在

	男	女	計
要支援 1	2	1	3
要支援 2		2	2
介護 1	4	10	14
介護 2	4	4	8
介護 3	1	2	3
介護 4		1	1
介護 5			
計	11	20	31

*平均年齢 男性:91.71歳 女性:91.41歳

令和6年度 活動報告

月	主な活動行事	行事	ボランティア
4月	苑外散歩 おやつ作り<たこ焼き> 防災訓練		
5月	苑外散歩 防災訓練 梅ジュース作り	菖蒲湯(5日) 節句(端午)	傾聴ボランティア<大道愛依さん>(1日)
6月	おやつ作り<蒸しパン> 防災訓練		
7月	七夕飾り おやつ作り<五平餅> 防災訓練	七夕	
8月	盆踊り おやつ作り<スフレパンケーキ> 防災訓練		
9月	敬老お祝い おやつ作り<おはぎ> 防災訓練	彼岸	
10月	小運動会 おやつ作り<蒸しパン> 防災訓練		
11月	山の講<ぼた餅> おやつ作り<五平餅> 干支作り	山の講(7日)	
12月	お楽しみ会(忘年会) 干支作り 防災訓練	ゆず湯	
・誕生会(色紙・歌・お祝いメッセージを贈りました) ・年4回(4月,7月,10月)の体重測定を行いました。 ・避難訓練(月1回)に参加しました。 ・グループ活動を行いました。(折り紙・クラフト作成・卓上ゲーム・レクリエーション等) ・月1回、お便りを発行しました。			

令和 6 年度 デイサービスセンター秋葉の苑やしお事業報告

<総括>

令和 5 年度末に一人の職員の退職希望があり、事業計画遂行自体が難しくなったのスタートであり、年度当初の利用者をケアすることに重点を置くこととした。その中 5 月に行動障害（易怒性・放尿・徘徊・入浴拒否など）顕著な利用者を 1 名新たに迎え、その対応にも苦慮したが、12 月末での事業廃止時には利用者は 5 名となっていた。

<重点目標に対する成果>

①1 日の平均利用人数を 7.0 人以上とし、稼働率 70.0%以上を目指す

「達成できていない」

②健康を損ねた利用者が安全な暮らしができるよう手助けをしていく

「朝はまず整容から始め、水分量と排せつの表を作成。一人ひとりの利用者の水分摂取と排せつの様子を確認することができた。一人一人が安全な暮らしができるよう個々に応じた手助けができたと思われる。」

<苦情>

令和 6 年度の苦情はゼロであった。

<会議・研修>

認知症関連研修修了者	認知症対応型サービス事業者管理者研修	1 名
	認知症介護実践者研修	2 名
	認知症介護実践リーダー研修	1 名
	認知症介護基礎研修	4 名 終了

月 1 回のデイサービス会議、適宜ケアカンファレンスは行ってきた。

運営推進会議は通常開催で 2 回行っている。

地域ケア会議 出席なし

<身体拘束>

令和 6 年度の身体拘束はゼロであった。

<事故>

令和 6 年度はゼロであった。

<感染症>

なし

<地域との交流>

畑を地域の方から無償借り入れ

誕生日祝いとしてボランティアからキーホルダーのプレゼント

<介護度別利用者延べ人数・実人数増減>

定員 10名

月 介護度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
要支援1	0	0	0	0	0	0	0	0	0				0
要支援2	0	0	0	0	0	0	0	0	0				0
1	9	9	8	10	8	9	9	8	9				79
2	28	31	34	34	18	18	21	18	11				213
3	50	49	42	46	42	41	44	41	43				398
4	0	0	0	0	12	2	0	0					14
5	0	0	0	0	0	0	0	0	0				0
計	87	89	84	90	80	70	74	67	63				704
新規		1											4
終了	1			2		1							10
実人数	8	8	8	8	6	6	5	5	5				

<介護度別実人数>

令和6年12月31日現在

介護度1	1人(男0女1)
介護度2	2人(男2女0)
介護度3	2人(男0女2)
介護度4	0人
介護度5	0人

5名:男性2名、女性3名
平均年齢:男性86.9歳、女性80.8歳

令和 6 年度 活動実施表

月	行事	内容	調理	活動	園芸
4			山菜 蕨を使って	クラフト パズル押し花	
5	端午の節句 菖蒲湯 母の日 八十八夜	中庭に鯉のぼりを上げている 菖蒲湯で健康を願っている お母さんの事を回想 茶摘みの回想	柏餅 紫蘇ジュース6リットル	回想 遠足	カスミ草プレ ゼント 花の植え付け
6	父の日 鮎の解禁	お父さんの事を回想 鮎釣りから川の話をしている	ジャガイモ を焼いて	ゲーム 魚釣り大会	生姜 植え付け
7	七夕飾り	願い事を書き笹に飾っている	紫蘇のゼリー	ゲーム ピンポン玉掬い	
8	盆	盆踊りを踊っている	カボチャを 使って	回想 戦争 お盆・夏休み	
9	敬老表彰 十五夜 秋の彼岸	祝いをしている 栗・すすきを飾っている 先祖を偲んでいる	お月見 みたらし団子	クラフト 松ぼ っくりおぼろ	
10	秋の祭典	祭典の DVD を観ている	煮リンゴ	回想 祭典	花の植え付け
11	紅葉 山の講	色づいた葉を飾っている 回想	里芋塩ゆで	ゲーム 秋の？ボックス	生姜収穫
12	忘年会 冬至 秋葉火祭り ケーキ会	昼食を楽しんでいる ゆず湯で健康を願っている 回想 クリスマスケーキ会を行って いる	松花堂弁当 (忘年会に) 柚子みそ	クラフト 正月飾り	(生姜は 蜂蜜生姜にし 水分補給時と した)
1					
2					
3					

- ・皆さまの誕生会を行っている
- ・年4回(4月,7月,10月,1月)体重測定を行っている(減少、増加の気になる方は都度)
- ・調理なども旬の食材の話題を提供できている
- ・季節の花を飾り、陶磁器で食事を提供したりして五感を大切にできている
- ・整容・身だしなみ等、できなくなった部分をケアし人としての基本的な部分を大切にできている
(令和6年度 目標)
- ・個々が望む活動を提供できている

令和6年度 デイサービスセンター〈秋葉の苑〉事業報告

＜令7年1月から3月までの事業報告＞

令和6年12月末をもって、認知症対応型デイサービス〈やしお〉事業及び地域密着型デイサービス〈すみれ〉事業を廃止し、令和7年1月1日から新たに一般型デイサービスの内「通常規模型デイサービス〈秋葉の苑〉」に一本化して事業を行った。

なお、事業内容については、定員の違いがあるものの、再編前の地域密着型デイサービス〈すみれ〉事業と同様の内容のため省略し、利用状況を下記のとおりに記載した。

＜介護度別利用延べ人数＞

＜単位：名 定員24名＞

	1月	2月	3月							合計
要支援 1	10	16	16							42
要支援 2	7	3	4							14
介護 1	105	106	124							335
介護 2	103	108	126							337
介護 3	68	79	81							228
介護 4	1	0								1
介護 5	0	0	0							0
合計	294	312	351							957

＜介護度別実人数＞ 単位：名

令和7年3月31日現在

	男	女	計
要支援 1	3	1	4
要支援 2		1	1
介護 1	3	10	13
介護 2	7	5	12
介護 3	2	5	7
介護 4			
介護 5			
計	15	22	37

令和 6 年度

元気はっらっ教室事業報告

利用者が今の生活を維持していける様、活動や体操等楽しく一日を過ごして頂けるように努めた。

<活動>

①

- ・ 輪投げやリクリエーションを定期的に行い体力維持に努めた。
 - ・ ロコモ体操・ラジオ体操を行い、身体機能維持向上を図る様努めた。
 - ・ 嚥下体操を行い嚥下機能向上につとめた。
- * 習字教室 生け花教室 新聞のカラー部分を利用したちぎり絵を作る活動ができた。

<健康管理>

身体に変化が見られた場合には、バイタルチェックを行ない、休息を勧めると共に看護師・医師へと繋げ、家族への連絡を取った。

<送迎>

利用者が不安なく、車に乗降出来るよう配慮した。
また、安全第一を考え、玄関先から、玄関先へと送迎した。

<食事>

日中、一人で食事を摂っている方が多い為か、大勢の方と食事が出来るのも楽しみの一つになっているようだった。
食事の支度、配膳、片付け等利用者が意欲的に行ってくれた。

<個別サービス計画>

計画書に沿った活動や支援に努め、個々に合ったサービスが出来るように努めた。
(計画書は年度始め、個々の評価は年度末に区役所に提出した。)

* 無欠席・2名(女性)

利用者内訳

<利用延人数・実人数>

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合 計
実人数	15	15	15	14	15	15	15	14	15	15	15	16	
延人数	60	56	56	57	60	56	59	55	59	36	45	62	661人
開催回数	8	8	8	8	8	8	8	8	8	6	6	8	92回

<地区別利用登録人数>

<3月末・現在状況>

	地 区 名	男	女	計
月 曜 日		0	0	0
火 曜 日	赤岡・原・金川	0	6	6
金 曜 日	若身・胡桃平・和泉平・平野・犬居	1	9	10
合 計		1	15	16

平均年齢・91歳 最高年齢・96歳 最低年齢・80歳

介護保険移行者・名 新規利用者・名 死亡・名

令和6年度 行事・活動報告

4月	お花見（春野町内）生け花教室(鈴木京子さん)
5月	おやつ作り((柏餅) 折り紙 習字教室(天野文恵さん) 気田へ買い物
6月	バスハイク(福田漁港) 生け花教室(鈴木京子さん) 工作(牛乳パック利用椅子作り)
7月	七夕飾り飾り付け 習字教室(天野文恵さん) レクリエーション
8月	新聞ちぎり絵 塗り絵 生け花教室(鈴木京子さん)
9月	演芸会出演 習字教室(天野文恵さん) おやつ作り(おはぎ)
10月	生け花教室(鈴木京子さん) 写経 気田へ買い物
11月	バスハイク(川根方面) 習字教室(天野文恵さん) 切り絵
12月	手芸(干支の新聞ちぎり絵)・生け花教室(鈴木京子さん) 気田へ買い物
1月	習字教室(天野文恵さん) 工作 レクリエーション
2月	工作(お雛様)
3月	おやつ作り(ぼた餅) 習字教室(天野文恵さん) 手芸(ひよこ作り)
毎月	誕生会・体重測定・カレンダー塗り

令和 6 年度 居宅介護支援事業所事業報告

高齢者が、住み慣れた環境で自立した生活の継続を支援するために、適切な介護サービスを総合的・効率的に提供できるよう取り組んだ。

(1) 事業所運営の安定と拡大

担当延べ人数の合計は、要介護 28 件増加、要支援 69 件増加した（前年度比）。

令和 6 年度の介護報酬改定により人員基準が、35 件／1 名以上から、44 件／1 名以上と変更となった。そのため、担当延べ人数の増加が稼働率の増加とならなかった。

居宅件数推移（延べ人数）

提供月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
予防給付	7	7	11	12	12	12	11	11	11	12	14	18	138
介護給付	58	60	61	63	59	61	57	56	57	63	62	62	719

(2) 業務チェック機能の強化

ケアプランや各種記録等について、ケアマネ同士の相互チェックを行い、適正なケアマネジメントのプロセスや法令の遵守に留意した。

(3) 事業所間の情報共有

事業所や地域包括支援センター、民生委員、医療機関を含む関係者（ケアプランに位置付けた支援者等）とは、密に連携し、受診や入院、サービスの変更等、早期の対応を可能にした。

(4) 在宅生活継続への支援

中山間地域で、フォーマルな社会資源が少なく、近隣に商店や公共交通機関の整備が十分でないなど、環境的な理由から在宅生活の継続が困難な利用者に対して、インフォーマルな支援を考慮したケアマネジメントを行った。

(5) 介護支援専門員としての資質・専門性の向上

令和 6 年度も、オンラインでの研修に加え、集合型の研修や合同事例検討会、他事業所との連絡会等積極的に参加した。

また、管理者は、主任介護支援専門員として、各種研修・事例検討会等の司会やファシリテーターとして貢献し、事業所及び地域のケアマネジャーの資質・専門性の向上に努めた。

【秘密の保持】

守秘義務遵守の観点から、個人情報文書類については、鍵のかかる書棚や引き出しにて保管し事務所も営業時間外は施錠し管理した。パソコンやUSBなどでの管理は情報漏えいや紛失などの恐れがあることを自覚し、法人外部への持ち出しを禁止した。

保険者等への個人情報の含まれる文書等の提出においては、紛失などをすることがないよう配慮した。

【苦情処理】

令和6年度は苦情なし。

【事故発生（車両事故含む）の防止】

令和6年度業務上の事故なし。